

第11号 菊池環境保全組合 新環境工場等建設の取組み

敷地造成工事・新最終処分場の整備を行う事業者が
新たに決定しました!!



※上空から見た敷地造成工事の進行状況

- 発行者 菊池環境保全組合
- 関係市町/菊池市・合志市・大津町・菊陽町
- 平成31年3月発行 (第11号)
- 編集 事務局 TEL (096)293-2555 FAX (096)293-3350
HPアドレス <http://www.kikunanseisou.or.jp>
Eメール info@kikunanseisou.or.jp

「新環境工場等環境保全協議会」が設立されました

昨年5月に新環境工場等環境保全協議会が設立されました。この協議会は施設周辺地域の生活環境保全及び昨年5月に締結した環境保全協定^(※)が適切に遵守されているかチェックするために周辺地域18行政区の代表者(18名)、行政(4名)により構成された組織です。



新環境工場等環境保全協議会
設立総会の様子



協定書に押印する後藤組合長(右)と
新環境工場等環境保全協議会の中嶋会長(左)

(※) 環境保全協定: 法律や条例では規定することができない事項についても実現するための約束事。施設周辺地域の生活環境保全が図られるだけでなく、周辺地域住民と組合が信頼感に基づき良好な関係を築くことにも繋がります。

環境影響評価事後調査について

平成30年3月に作成した環境影響評価書に基づいて平成30年5月より事後調査を実施しています。調査項目は環境影響評価項目のうち、予測の不確実性及び環境保全措置の効果等を考慮して「騒音」、「振動」、「地下水」、「動物」、「植物」、「生態系」について調査します。

事後調査の実施状況

<p>コベソマイマイの捕獲・移動状況</p>  <p>改変区域外の樹木が密集した湿潤な場所に四方を網目の防風ネットで囲い、コベソマイマイが潜むことのできる区画を作り、マーキングした9個体を区画内に移動しました。</p>	<p>キノボリトタテグモの個体移動作業状況</p>  <p>個体の住みかとなっている木の樹皮を採取し、改変区域外の木へ張り付ける方法により、キノボリトタテグモ19個体を移動しました。</p>	<p>地下水調査の実施状況</p>  <p>工事等による地下水位の変化を監視するため、水位計による連続測定を実施しています。これまでに大きな水位の変化は確認されていません。</p>	<p>建設作業騒音、振動調査の実施状況</p>  <p>工事及び工事用車両の搬出入に伴う騒音・振動を監視するため、敷地境界4地点において調査を実施しています。建設作業騒音、振動ともに規制基準に適合していました。</p>
---	---	--	--

事後調査とは、環境影響評価において予測の不確実性が大きい場合などに、事業者が事後的に環境の状態を把握する調査をいいます。

■新たに落札事業者が決定しました

昨年3月に新ごみ処理施設の事業契約を締結した「日立造船株式会社 九州支社（代表企業）」に続き、事業敷地内の造成工事や新最終処分場の埋立地（※1）及び浸出水処理施設（※2）の落札事業者が新たに決定しました。

●「敷地造成工事」の落札事業者決定

- ◆事業の名称 新環境工場等敷地造成工事（1工区）
- ◆請負業者 株式会社 安藤・間 九州支店
- ◆工期 平成30年4月2日～平成31年7月31日
- ◆請負金額 ￥1,273,342,356－（消費税込）

●「新最終処分場（埋立地）建設工事」の落札事業者決定

- ◆事業の名称 新最終処分場埋立地建設工事
- ◆請負業者 三井住友建設株式会社 九州支店
- ◆工期 平成30年9月3日～平成33年3月25日
- ◆請負金額 ￥6,451,334,129－（消費税込）

●「新最終処分場（浸出水処理施設）建設工事」の落札事業者決定

- ◆事業の名称 新最終処分場浸出水処理施設建設工事
- ◆請負業者 共和・宇都宮特定建設工事共同企業体
- ◆工期 平成30年11月19日～平成33年3月31日
- ◆請負金額 ￥1,506,600,000－（消費税込）



敷地造成工事については、昨年5月に着手しています。また本年3月からごみ処理施設及び埋立地の建設工事を随時開始します。浸出水処理施設建設工事については昨年11月に契約を締結し、今後実施設計を経て本年秋頃に工事着手予定です。

- ※1 埋立地：ごみ処理施設において焼却した焼却灰、焼却飛灰、破碎不燃物などの埋立廃棄物を埋め立てる施設。
- ※2 浸出水処理施設：埋立地で埋め立てられた廃棄物に付着している汚れなどを洗い流しますが、その廃棄物に触れて汚れた水（浸出水）をきれいな水に処理する施設。（再び埋立地の散水に循環利用します。）

●今後の工事スケジュール

工事の別	2018年度 (平成30年度)	2019年度 (平成31年度)	2020年度 (平成32年度)	2021年度 (平成33年度)
敷地造成等	5月着手	→		
ごみ処理施設	3月着手	→		
最終処分場	埋立地	3月着手	→	
	水処理施設	9月着手(予定)	→	
				供用開始

■「新ごみ処理施設」及び「新最終処分場」の施設概要

新ごみ処理施設の概要

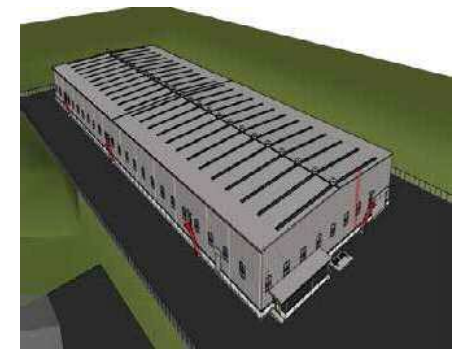
設計建設期間	平成30年4月～平成33年3月
供用開始	平成33年4月～
施設規模	170t/日 (85t×2炉) 24時間連続運転
処理方式	「ストーカ炉」 炉に高圧の空気を吹込み、ごみ自身が持つ熱量（カロリー）で燃やし続ける方式
処理物	・可燃ごみ、可燃性粗大ごみ ・可燃性残渣（不燃・粗大ごみ及び資源物の残渣、し尿し渣） ・小動物の死骸
エネルギー回収	ごみ焼却熱を利用した発電設備 ・約20,800MWh/年 (一般家庭約5,800戸相当) ・場内電力を賄い、余剰分は売電



ごみ処理施設のイメージ図

新最終処分場（埋立地）の概要

建設期間	平成30年9月～平成33年3月
埋立期間	平成33年4月～平成53年3月（20年間）予定
施設規模	埋立容量 130,000m ³ 埋立面積 11,000m ²
施設構造処理方式	「クローズド型・循環無放流」 ・埋立地を屋根と壁で覆い、外部と遮断する ・埋立地で発生する処理水は放流しない
埋立物	・焼却残渣（ごみ処理施設の焼却灰、可燃性残渣を焼却処理したもの） ・不燃残渣（環境美化センターで破碎し選別したもの）



最終処分場埋立地 外部のCG画像

新最終処分場（浸出水処理施設）の概要

設計建設期間	平成30年11月～平成33年3月
浸出水処理期間	平成33年4月～平成68年3月（35年間）予定
施設規模	処理能力 25m ³ /日
脱塩処理	循環無放流方式であるため、循環することにより塩濃度が高くなっていくことから、通常の浸出水処理に加えて脱塩処理を行う それにより発生する生成塩は、有価物として有効活用する予定



最終処分場浸出水処理施設のイメージ図